

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成27年 月 日

協議会名: 津山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点(特記事項を含む)
中鉄北部バス(株)	加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などを実施し、乗り継ぎの状況や、利用目的と動態調査を行い、利用者ニーズの把握にあたっている。	A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。	B 平成22年度市内の全バス利用者数545,042人に対し、H27年度利用実績は493,657人、22年度比90.6%となり、現状では目標を下回っている。 (理由等) 全バス利用者数は減少傾向を示しているが、地域内フィーダー系統では、平成22年度比約23%増加となっている。 このことは津山市及び幹線系統路線の沿線自治体の全体的な人口、特に主な利用層である学生数の減少の影響を、特にフィーダー系統を中心とした体系整備による利便性向上等の効果だけでカバーすることはできていない状況を示している。	平成25年4月から市内西部地域を中心とした体系整備により、3ヶ年計画の津山市公共交通連携計画に沿った再編が一通り完了した。これと同時に、地域内フィーダー系統を核とした時刻表改正等を実施し、同時に市内バス路線を網羅したバスマップを作成し、市民に広く広報に努めている。 今後は、利用者や地域住民等からの意見・要望・評価を踏まえ、運行ダイヤの改良、接続の時間等も見直していくとともに、幹線系統も含めた形での利用促進、利便性向上を図る施策を検討していく。
	勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A ・計画通り事業は適切に実施された。		
	津山東循環線 (津山～イオン津山店前～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	小循環線 (津山～鉄砲町～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	津山西循環線 (津山～マルナカ院庄店～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山～マルナカ院庄店)		A ・計画どおり事業は適切に実施された。 市民からの要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成27年 月 日

協議会名:	津山市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は岡山県北東部に位置し、人口104,717人(平成27年1月1日)、総面積506.33km²で、県内第3の人口規模である。平成17年に旧加茂町、旧阿波村、旧勝北町、旧久米町と合併し、美作地域の中心都市としての役割を担っている。</p> <p>地勢としては、岡山三大河川の吉井川が貫流する市内中心部の盆地を囲むように、中国山地、吉備高原に接しており、林野面積は342.57m²で総面積の60%以上を占めている。</p> <p>人口構成としては、65才以上人口は29,240人と人口の27.4%を占め、少子高齢化、人口減少が進んでいる。</p> <p>平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、再編実施等を行い、一定の成果を得たところであるが、公共交通を取り巻く環境は大変厳しく、事業者収支も逼迫し、行政からの補助がなければ維持できない状況である。こうした中、乗り継ぎ拠点での幹線路線とフィーダー系統路線の結合等による効率的な運行を実施し、将来的にも継続可能な公共交通を維持していく。</p>

平成27年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 津山市地域公共交通協議会 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



津山市の概要

- ・平成17年2月に1市3町1村が合併
- ・人口 106,778人(平成22年度国勢調査)
- ・面積 506.36km²

津山市地域公共交通協議会の構成員

学識経験者、地域住民の代表、中鉄北部バス(株)、岡山県タクシー協会津山支部、事業者労組、津山警察署、津山市、岡山県、岡山運輸支局

概 要

津山市では、不採算路線における路線バスの廃止の可能性の増大、市町村合併前に旧市町村がそれぞれ独自に行っていた路線の混在とそれに伴う不均衡、周辺市町村からの多数の乗り入れによる路線のわかりにくさ、また、住民ニーズの多様化に伴うコミュニティバスの運行委託による自治体の負担増大など様々な問題が平行して混在していた。

これらの問題を改善すべく、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定した。この連携計画は、競合路線の整理、格差の是正により効率的な公共交通体系に再編を行い、合わせて公共交通の利便性を向上させ利用を促進することで、維持継続出来る地域公共交通体系づくりを目的としている。利用者が減少する中で、事業者の収支も逼迫し、行政からの補助がなければ維持できない状況となっている。こうした中で、将来的にも継続可能な公共交通体を維持していくために、地域内フィーダー系統確保維持事業を活用した市内の地域公共交通の維持継続に取り組んだ。

平成22年10月に加茂支所線、勝北支所線、(奥津川)勝北支所線、東循環線、平成23年12月から小循環線、平成24年10月から阿波過疎地有償運送の運行を開始し、平成25年4月には西循環線、東循環線等の改正を実施。引き続き地域の状況把握しながら実施内容の評価検証を実施し、改善すべきものは改善しながら、利用しやすい交通体系を進めている。

協議会の主な取り組み

- ・効率的運行体系構築、競合路線の解消等
- ・公共交通結節点における停留所整備
- ・わかりやすい情報案内(バスマップ)の提供
- ・交通空白地へのフィーダー交通の導入

協議会における検討

協議会の開催状況

- ・平成26年6月20日開催 生活交通確保維持改善計画(H27～29)を協議
- ・平成27年6月12日開催 生活交通確保維持改善計画(H28～30)を協議
- ・平成27年10月7日開催 生活交通確保維持改善計画(H28～30)の路線変更、時刻改正等協議
- ・平成27年12月 日開催 平成27年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を協議(書面協議)

津山市地域公共交通協議会 事業の評価

定量的な目標・効果

全域

- (目標)・津山市生活交通確保維持改善計画による利便性を考慮したフィーダー系統と幹線バスの接続により、市内の全バス利用者数の増加(H22比)
- (効果)・当該路線を維持することにより公共交通空白地域を解消し、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。
また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。
・通学手段が確保されることにより、父兄等における送迎の負担軽減及び自動車利用の抑制が図る。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などを実施し、乗り継ぎの状況や、利用目的と動態調査を行い、利用者ニーズの把握にあたりている。

実施した利用促進策

親子エコフェスタ事業において、バスについての周知コーナーを出展し、循環路線の無料乗車体験を実施や他出展企業との連携検討等を行った。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

さらなる接続の改善、利用促進に向けて、循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査も行い、他の循環系統との乗り継ぎのニーズなど広域的な実態を検証している。

地域住民の意見の反映

- ・平成27年度生活交通確保維持改善計画期間中の地元自治会や利用者からの要望に対し、加茂支所線、勝北支所線のバス停見直し、時刻表改正を行った(H27.12.1改正)
- ・平成27年10月から開始の、「津山市バス利便性向上及び利用促進事業」中で、東循環線車内、バス停等において利用者ニーズの聞き取り調査を実施予定。

津山市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

- ・阿波過疎地有償運送の実施により、交通空白地域の利便性の向上が図られ、予想を上回る乗車実績で引き続き推移している。
- ・東循環線は、再編により利用者増加の傾向で推移しているが、当線は交通量も多く、渋滞による時刻の遅れが発生している。
- ・加茂支所線、勝北支所線、同(奥津川)線は、要望・運行状況を踏まえ、さらなる改善を図っている。
- ・小循環線は、旧市内中心部の交通空白地を運行しているが、道路環境により片回りで複雑な路線形態となっており、一定の新たな需要を取り込んでいるものの、周知不足により全体的な利用者数は伸び悩んでいる状況。
- ・西循環線、マルナカ西循環線は、西地区の基幹となる路線で、久米地域からの接続路線である。利用者へも路線内容が浸透し、利用者も好調に増加している。

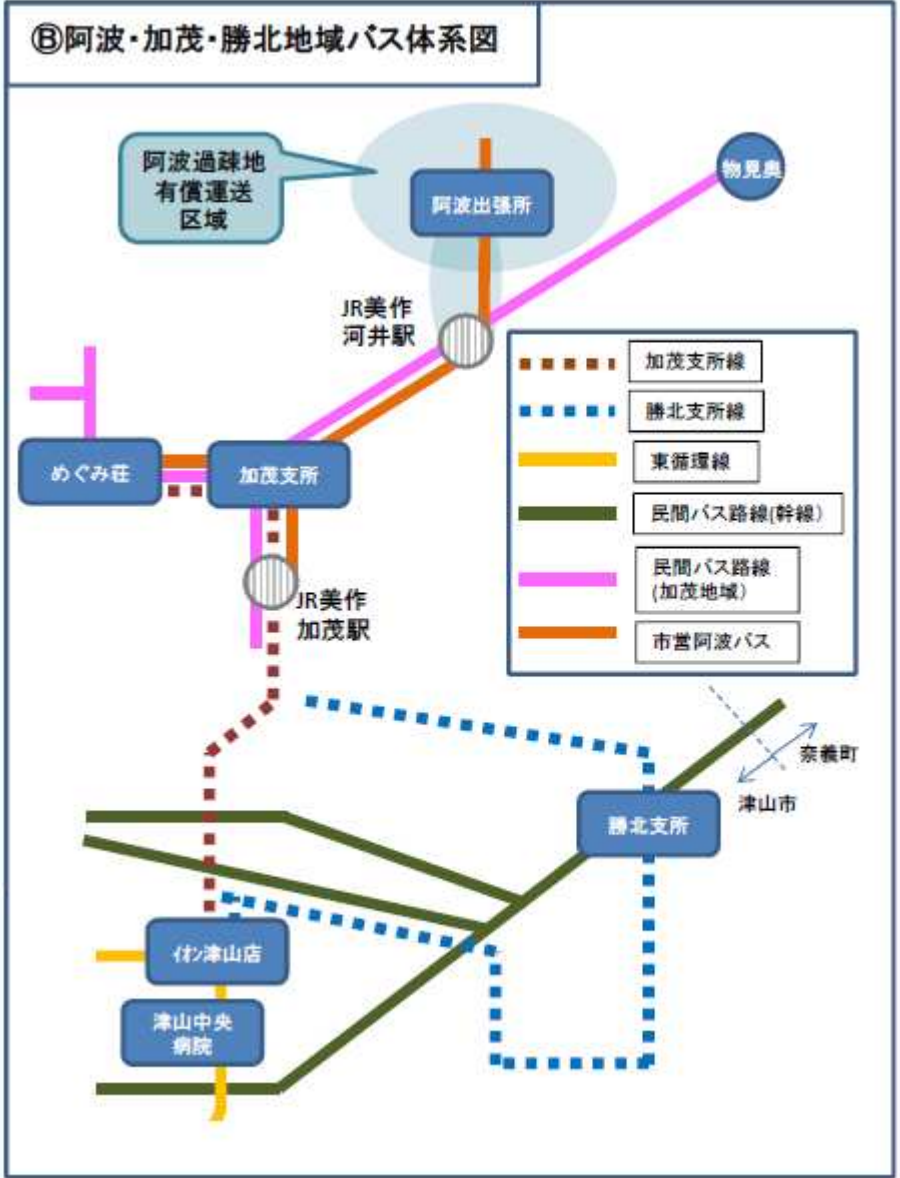
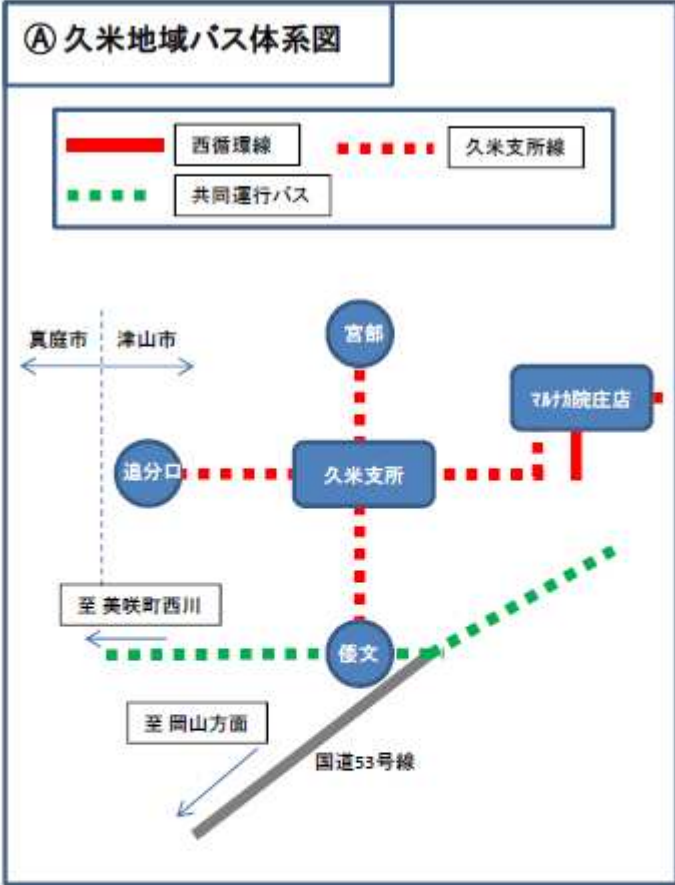
目標・効果達成状況

- ・地域内フィーダー系統に限ってみると、平成22年度比23%の利用者増となり、平成26年度に比べても約5%利用者は増加している。一方で、目標とする市内全バス利用者数増加は非常に厳しい状況である。
- ・平成25年4月から市内西地域を中心とした再編を実施、住民生活の質的向上、路線バスの維持が図られ、幹線への接続できる交通手段の確保ができた。
- ・平成27年度生活確保維持計画期間中に、実施は間に合わなかったが、地元町内会等からの要望を受け、加茂支所線で商業施設内にバス停を設置する路線変更を行い、利用促進を行った。

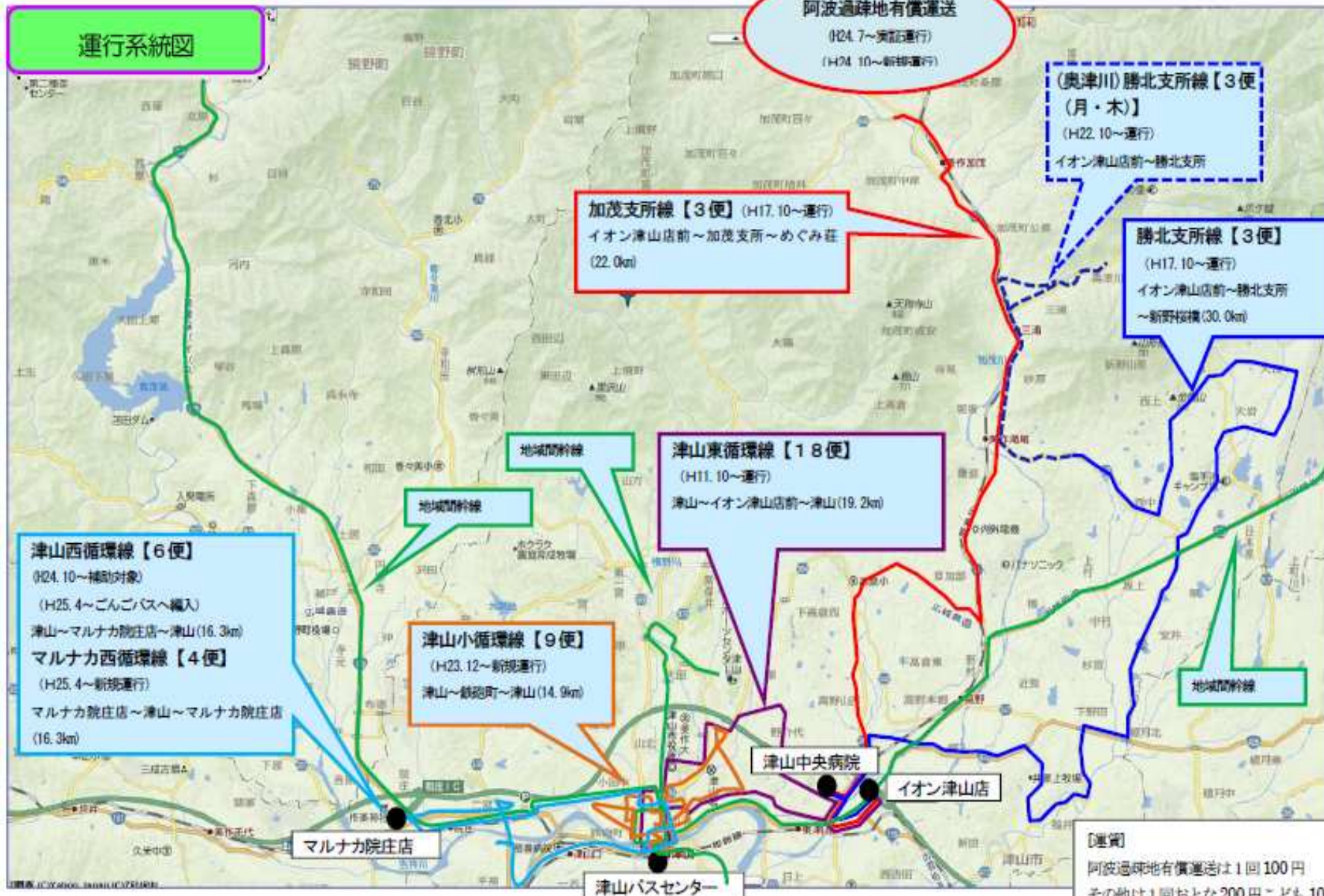
事業の今後の改善点

- ・引き続き、利用者、沿線住民の意見や要望を踏まえ、また地域の状況も的確に把握しながら実施内容の評価・検証を実施し、改善すべきものは改善し、継続すべきものは継続することで計画をスパイラルアップさせ、利用しやすく、維持できる地域公共交通体系づくりを引き続き進めていく。
- ・平成27年10月から開始の、「津山市バス利便性向上及び利用促進事業」中で、東循環線の利用状況や利用ニーズを調査し、情報をフィードバックさせていく。

交通体系図 別紙2



運行系統図



[運賃]
阿波過疎地有償運送は1回100円
その他は1回おとな200円こども100円